第５回 米沢市立学校適正規模・適正配置等検討委員会　会議録

１　日　時　令和６年３月１４日（木）１９時００分 ～ ２０時００分

２　場　所　置賜総合文化センター３０１研修室

３　出席者　（１）委員　１１名
　　（２）事務局
　　教育管理部長　森谷　幸彦
　　教育指導部長　山口　玲子
　　教育総務課長　石黒　龍実
　　学校教育課長　植木　修
　　学校教育課　適正規模・適正配置推進主幹　森谷　純
　　学校教育課　課長補佐　五ノ井　智子
　　学校教育課　適正規模・適正配置推進室長　柴倉　和典
　　学校教育課　指導主事　青柳　開
　　学校教育課　主事　渡邉　亮

４　内　容
　（１）開会
　（２）あいさつ
　（３）会議録について
　（４）協議
　　①パブリック・コメントの結果について
　　②答申案について
　　③答申書の手渡しについて
　　④その他
　（５）その他
　（６）閉会

（４）協議

（委員長）　それでは、協議に入らせていただきます。１つ目の協議事項の「パブリック・コメントの結果について」です。事務局から説明をお願いします。

《　事務局から説明　》

（委員長）　それでは、ただいま説明のあったパブリック・コメントの結果について、ご質問あるいはご意見などありましたらお願いします。ただいま説明のあった箇所以外のところに関することでも結構です。特に無ければ、ただいまの内容でお認めいただいたということで進めさせていただきます。

（委員長）　続きまして、２つ目の協議事項に進ませていただきます。「答申案について」事務局から説明をお願いします。

《　事務局から説明　》

（委員長）　答申の最終案について、ご意見や何かコメントをいただければと思います。それでは、委員の皆様から何でも結構ですので、一言いただければと思います。

（委　員）　今回最終ということで、様々検討を重ねているところですけれども、本市の小中学校の将来の見通しがすごくすっきりした形でまとまったというふうに、学校現場で仕事をしている者としてもそのように感じているところです。統合後１年が過ぎた西部小学校について少しお話させていただきますが、子ども達は段々と落ち着き年度末を迎えることができました。６年生が、小学校６年間の思い出を、五七五の川柳のような形にまとめたのですが、三沢東部小学校から来た子ども達の中には、西部小に来て新しい出会いがあり、友達が増えてよかったというふうに書いていました。そのような川柳を作ってみてよかったなというふうに思ったところです。

三沢地区の三沢コミュニティセンターの管理運営委員会にも、この４月から出席させていただいてるところですが、三沢東部小学校が閉校して、西部小に統合したわけですけれども、その会議に出席させていただいて感じることは、地域の方々が、学校が閉校したものの、自分たちの地域をこれからどうやって盛り上げていったらいいのかということを、どの会議に出席させていただいてもすごく熱く議論されているんです。そういったところから、この統合をきっかけに、三沢地区として自分たちの地区をこれからどんなふうにしていったらいいのかということを考え直す、見つめ直す機会にもなったのではないかと部外者が申し上げるのも恐縮なんですが、そんなふうに感じているところです。

（委　員）　今日最終で答申ということでありますけれども、特に小学校、中学校の統廃合ですから、地域の人も子ども達も大変関心のあることだというふうに思っております。この答申の真ん中の方にありますけれども、「地域と学校がともに子ども達を育むことを大切にする視点で見直しをした」と、答申ですからこのように綺麗にまとまったと思いますけれども、私もコミセンを預かっているものとして、地域に小学校がないということになると、現実的に地域活動にも関心がなくなり盛り上がってこないということがあると思います。いかにしてその地域が学校教育に関わっていくかということ、やっぱりこれは一番大きな課題じゃないかなっていうふうに思っております。

（委　員）　小学校が統合されて地元から学校がなくなるというのは、地域にとっても本当に寂しいことなんだろうなというふうなことを、今回の会議に参加させていただいて、ひしひしと感じております。今まで小学校を中心にコミュニティができていたのに、中心となる学校がなくなってしまうとどういうふうなことになるんだろうか。今回のパブリック・コメントを読ませていただいて、万世小をなくさないで欲しいという声がすごく切なく、文章から伝わってくると思って読ませていただきました。ただ、ここに書いていただいたように出生数等を見てみると、平成２８年には５０４人だったのが、どんどん減ってきていて、今年は４００人届くのかなというふうな人数なので、致し方がないんだと思うんですが、とても悲しいなという感想を持ちました。

（委　員）　本当に短期間の中で、この適正規模・適正配置等基本計画という素晴らしいものをまとめていただいたということについて、改めて、委員の皆さん、事務局の皆さんに感謝申し上げます。この会議に参加させていただいて、私もたくさんの事を学ばせていただいたなっていう気がします。今回大きなところが、

小学校の基準を新たに見直していただいたということ、ここでかなり地域の方々、ある意味安心なさったところもあるかな、統合がもう少し先になりそうだ、じゃあ何を頑張らなくちゃいけないのか、そんなところが見えてきたと思います。そのためにどうすればいいのかなっていうことも考えていっていただけるのではないか、そんな猶予期間をいただいているような気がいたしました。

また、この委員会でいろいろ今の米沢市の学校の課題であったり、地域の課題であったり、非常に明確にお話いただいたことが、この項目にもちゃんと現れています。これが非常にありがたいし、何を目指すのかがはっきりしてきたのかなと思います。

最後に、やっぱり小中一貫教育っていうことをしっかり打ち出していただいた。小中連携教育から一歩進んで、小中一貫教育であると。これをどう進めるのかというのが、これからの肝になってくる。もちろん、今までのやり方をある意味大事にしつつ、でも、これからの状況は、今までの米沢市の状況とはまた違ってくる。じゃあ、新たな視点で何をしていかなくてはいけないのか。過去の伝統を大事にしつつも、ある意味チャレンジ精神で前に進む。こういうことも大事になってくるんだろうなってことを、改めて思ったところです。ありがとうございました。

（委　員）　パブリック・コメントを読ませていただきますと、万世小・上郷小の統合というのが、まだ引っ張られているのかなというふうな気がします。特に、地域住民の大前提になっているのは、やっぱり統合があるんだろうなっていうところから抜け出せないっていうふうなところが、あるのかなというふうに思いました。基本計画を読めば詳しく書いてあるわけなんですけれども、地域の人は忙しいのでロードマップだけを見てしまうと、どうしても、やっぱり統合かなっていうふうに思ってしまうのかなと思いました。この新しい基準である「１学年１学級、全体で６学級」という基準が載っていないこともあって、そこを払拭するのがまず大変ではないかなというふうに思ったところです。

特に基本計画の中では、向こう５年以内とか、細かいところまで書いてありますので、これを地域住民に伝えるっていうふうなことを、よろしくお願いしたいというふうに思います。最後に素晴らしい答申をまとめることができて、大変ありがとうございました。

（委　員）　今回、この委員会には、障害のある子ども達にも受けていただきたいっていうような思いで参加しました。交流学習、共同学習をしっかりやっていくとか、学校全体でインクルーシブ教育に関する教職員の専門性を向上させていくなんていうことが載っていますので、このようなことを進めていただいて障害のある子もない子も一緒に生活していけるような米沢市になっていくといいなというふうに思いました。どうもありがとうございました。

（委　員）　この５回の会議を通して、米沢市では年々少子化が進んでいるわけなんですけれども、それに合わせた適正規模・適正配置等基本計画の見直しということで、本当にきめ細やかだったのではないかなというふうに思ったところです。ＰＴＡとしては、本当に子どもたちの状況といいますか、それは本当に親としても願うわけでございますので、大変良かったのではないかなというふうに思

っています。私自身、今まであまりこういうことに関わってこなかったので、大変勉強させていただきました。ありがとうございました。

（委　員）　私が思ったところは、パブリック・コメントの中で、特に統廃合が進みそうな学校について非常に切実な声とか、たくさんあがっているのを拝見しまして胸が痛む思いです。万世小学校の近くの会社に勤めていて、入社したのが２６年前だったんですが、その当時と今現在では、子どもの数が大分減ってしまったことを本当に毎朝感じています。そういうところを見ると致し方ない時代の流れに対して、今、最善の形をこの答申にまとめることができたというふうに捉えております。

　パブリック・コメントに意見をいただいた方、多分、例えば令和５年度から令和１１年度までといったスパンで見てしまうと、どうしてもそういう言葉になるとは思うんですが、昭和５２年度には１万２千人いた子どもが令和１１年度はその３分の１になるということで、そのスパンで見るともう致し方ない流れなんだということも理解いただけるのではないかと思います。今、本当にベストを尽くしているんだということが保護者のみなさんに伝わればいいなというふうに願っています。ありがとうございました。

（委　員）　学校の視点でいくと、特に、小学校は、地域との結びつきがすごく強くて、一体化してるような地域もあります。そうした意味で地域住民の方の関心が高いのかと思います。ただ、やはり統合というところは避けて通れないというところがありますので、米沢の教育という視点で未来を見据えて、米沢の教育を創造していくという視点で考えていくことが大事かなと思っています。そうした意味でしっかりした基本計画ができたのではないかと思います。それにつけても本当にパブリック・コメントを拝見して、それに対する回答を見させてもらいましたけれども、本当にこの案について、教育委員会の方々が本当に誠実に一生懸命対応されているということが手にとるようにわかりました。

（委　員）　答申案の内容については、これまでの様々な協議を十分に反映した内容ということで、大変良い内容だなというふうに感じております。その中のロードマップの部分なんですけれども、例えば、２番の東部小のところの６年度からのところに、文章で東部小が複式になるような事態については想定されていないということでよかったでしょうか。あと、五中についてなんですけれども、来年度の１年間で閉じることになるということで、地域の方々と協議させていただきながら、閉校に向けて取り組んでいるところなんですけれども、改めて地区の方々が、本当に学校を愛してくださっているっていうことを実感しております。１つ例をあげると、地区の方から教育後援会ということで、実は、一軒一軒からお金を頂戴しています。それで、閉校になるということで地区からいただいているお金については、昨年の時点で、もうやめていただいて使い切るような形でどうでしょうかというお話をしたところ、地域の方に何を言っているのだと、最後まで出させてほしいというようなお話をいただいて、本当にありがたいなと思ったところです。中学校が統合すると地区も多くなって、その中で地区との繋がりが薄れていくっていうような感覚は持ってはいけないと思います。そして、小学校と地区の繋がりも十分踏まえながら、中学校として対

応する必要があるんだなということをひしひしと感じております。

（委員長）　ありがとうございました。今のご意見で、１つ大事なご指摘いただいたと思うので事務局から説明をお願いします。ロードマップで、例えば、２番のところで、東部小学校に関して再編統合の判断基準としてないというのは、どういう考え方なのかということについて事務局からお願いいたします。

（事務局）　この度の見直しに当たりまして、各小学校の子どもたちの将来予測ということで確認をさせていただきました。その際、今回の見直し後のロードマップにおいても、現行のロードマップにおいても、いずれもいわゆる小規模校となる学校を明記しております。今ご指摘のあった東部小学校と松川小学校は、児童数を比べた場合に、東部小は大規模校、松川小は小規模校ということになります。同じようにすべての小学校につきまして、ロードマップに記載させていただくに当たり、学校規模を確認したうえで、大規模校と小規模校が統合する組み合わせの場合は、小規模校の学級編制の状況について、複式になる可能性があるかどうかということで、このようにまとめにさせていただいたところです。

（委員長）　いかがでしょうか。こちらに書いてある令和１９年度までのところで、そういう判断でいけるだろうという予測であるということで理解すればよろしいのではないかとかと思います。

（委員長）　それでは、最後に私の方から一言申し上げたいと思います。今回取りまとめた答申について、２つほど感じたことがあります。１つは、最終的に資料５のロードマップに記載されているとおり、新たな具体的な統合というようなところが、今回の答申には書いていないということです。これは単純な先送りのようなものではないというふうに私は考えております。委員の皆様からいろいろなご意見をいただいて、それに基づいて、現在の米沢の教育の現状を考えて、文部科学省がいう１学年２学級の基準とは違う基準が米沢では適切であろうと、そういう新しい考えが今回の委員会で生まれたと、そういうことなのかなというふうに思っております。ここは非常に大事なポイントなのではないかなというふうに考えております。一律に文部科学省の作ったルールに従うのではなくて、これも米沢がどうあるべきかというようなところから出たものかなと、そんなふうに考えまして、これは非常に価値のある判断であったというふうに思いました。

あと、もう１つ非常に印象的なのは、今回単純にその配置をどうするかというようなところだけではなくて、米沢の教育をどうしていくのか、子ども達にとって一番良いことは一体何なのかというようなことを、委員の皆様からご意見をいただいて、それが今回の答申に盛り込まれたというようなことで、非常に価値があったというふうに思いました。

例えば、インクルーシブ教育のことなどにつきましては、かなり時間をかけて議論をさせていただきまして、それが今回の答申に入っていると思います。子ども達にとって一番良いことは何なのか、どんな教育をしていくことが米沢の子ども達にとって良いのかというようなところが議論されまして、委員の皆様からご意見を頂戴して、それが今回の答申に反映されたということが非常に価値のあることだったのではないかなと、そんなふうに考えています。

これもすべて委員の皆様の活発なご意見とそれに基づいて、この案を準備していただいた事務局のおかげだと考えているところです。

（委員長）　委員の皆様から、様々なご意見を頂戴いたしましたが、総合的にみて今回の答申案について、特に修正の箇所はなかったかと思いますが、それでよろしいでしょうか。

それでは、特に無いようですので、答申、基本計画、ロードマップにつきまして、この案のとおり進めさせていただくことといたします。

（委員長）　それでは、続きまして、３つ目の協議事項に入りたいと思います。答申書の手渡しについてです。事務局から説明をお願いします。

《　事務局から説明　》

（委員長）　事務局からの提案として、答申書の手渡しについては、委員長の私にご一任いただいて私から教育委員会へ提出するといういうようなことでありました。委員の皆様、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは事務局の提案のとおり、答申書の手渡しについては一任いただくということで、委員会を代表して私からお渡しさせていただきます。

（委員長）　それでは、４番目の協議事項の「その他」ですが、委員の皆様から、その他協議したいことですとか、言っておきたいこととか、そういうようなことがありましたら、ぜひお出しいただければと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。特に無いようですので、その他の協議事項は無しということとさせていただきたいと思います。

以上で、本日予定されていました協議事項はすべて決まりましたので、これで協議は終了とさせていただきたいと思います。

（事務局）　委員長ありがとうございました。それでは、ここで委員長からご挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくお願いいたします。

（委員長）　それでは、最後にご挨拶を申し上げたいと思います。今日、冒頭でも申し上げましたけれども、昨年の８月に始まりましたこの検討委員会ですが、５回の議論を踏まえまして、無事に答申及びロードマップを作成することができました。これも、ひとえに委員の皆様に活発なご意見を出していただき、事務局のみなさんにまとめていただいたおかげだと思います。今回は、これを答申という形で教育委員会へ提出させていただきますけれども、今後、それを実現していくというところが何よりも大事かなというふうに思います。教育が子ども達にとって非常に大事であり、米沢市の未来もそこにかかっているというところだと思いますので、その実現に向けて、今後も委員の皆様の御協力をいただければというふうに思っているところです。

昨年の８月から続いてきましたこの検討委員会はこれで終了となります。委員の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（事務局）　それでは、以上をもちまして本日の検討委員会は終了となります。あわせまして、米沢市立学校適正規模・適正配置等検討委員会の全日程も終了となります。毎回慎重なご協議をいただきまして誠にありがとうございました。